

平成31年度

入学試験問題

(40分)

国 語

(進 学コース)

(ベーシックコース)

(マネジメントコース)

学校法人 成美学園

福知山成美高等学校

受験上の注意

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 解答はすべて解答用紙に記入下さい。
- 試験中に問題冊子および解答用紙の汚れなどに気付いた場合は、手を上げて監督者に知らせ下さい。
- 問題の答えは、ていねいな字で書き下さい。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数については、句読点、「」なども一字に数えるものとする。)

〈 養老孟司『いちばん大事なことー養老教授の環境論』

※設問の都合上、一部を省略・変更しています。

問1 — 線部(ア)〜(オ)のカタカナを漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

(とめ・はね・はらいに注意して楷書で丁寧書くこと。)

問2 — 線部P「うるさく」、Q「まったく」の品詞名を次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|----|---|-----|---|-----|---|------|---|-----|
| ア | 名詞 | イ | 動詞 | ウ | 形容詞 | エ | 形容動詞 | オ | 助動詞 |
| カ | 副詞 | キ | 連体詞 | ク | 接続詞 | ケ | 感動詞 | コ | 助詞 |

問3 空欄(Ⅰ)、(Ⅱ)、(Ⅲ)に入る最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|----|---|------|
| ア | しかし | イ | だから | ウ | つまり | エ | まず | オ | もちろん |
|---|-----|---|-----|---|-----|---|----|---|------|

問4 — 線部①「それ」は何を指しているか、本文中の語を用いて「〜こと。」に続くように、十五字以内で説明しなさい。

問5 空欄 X、Y に当てはまる最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|----|---|----|
| X | ア | 都市 | イ | 現実 | ウ | 田舎 | エ | 機械 |
| Y | ア | 抽象 | イ | 対象 | ウ | 主体 | エ | 本体 |

問6 — 線部②「ああでもない、こうでもないといじる」とあるが、これに最も近い意味の四字熟語を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ア | 日進月歩 | イ | 試行錯誤 | ウ | 我田引水 | エ | 一心不乱 | オ | 温故知新 |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|

問7 — 線部③「過程」、⑨「裏腹」の意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 多様 イ 道筋 ウ 反対 エ 結末 オ 同様

問8 — 線部④『手入れ』というのは、だから加減がむずかしい。」とあるがそれはなぜか、本文中から五十字程度で抜き出し、「くから。」に続くように初めと終わりの四字を答えなさい。

問9 — 線部⑤「複雑」、⑧「結果」の対義語にあたる二字の熟語を次の語群の漢字を組み合わせ、それぞれ答えなさい。

単・因・雑・果・要・純・原・混

問10 — 線部⑥「システム」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア より新しいものに変更すること。
イ 元気を回復すること。
ウ 本質的なもの。
エ 種類、区分、部門など。
オ 体系や組織など。

問11 線部⑦「無関係」のように、次の熟語に「不」「無」「非」「未」のいずれかを付け、打ち消しの三字熟語を完成させなさい。

A 対称 B 可能

問12 本文は次の一文が抜けている。この文が入る最も適当な箇所を本文の【a】〜【d】から選び、記号で答えなさい。

これが自然とつきあうときの、いちばんもつともなやり方だと思う。

問13 本文の内容について述べた次の文のうち、あてはまるものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自然とつきあい「手入れ」をするなかで、努力・辛抱・根性という日本人の性格は培われてきた。
- イ 美容整形は、毎日手を加える過程があるため「手入れ」である。
- ウ 人間は周りの環境に対して「手入れ」をすることで、複雑で予測不能な自然のシステムを保持する必要がある。
- エ 自然とつきあうときにだけ、心の底に「手入れ」という気持ちが必要である。
- オ 「手入れ」はまず相手を認めることにあり、相手を自分の脳の中に取り込まなければならぬ。